令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【片柳中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。国語の定期的の漢字テストの実施や数学での授業始めの計算プリントの実施を継続し、朝学習も定着につながっていると考えているので、他教科でも朝学習のさらなる充実を目指したい。また、次年度の改善策としては、意味理解や用語理解を深めるために、各教科で個別最適な学びを意識し、誰一人取り残すことなく全員の成長を目指すための指導方法を模索していきたい。
思考・判断・表現	資料、データからの読み取りや問題文から考えられることをまとめるといった読解力を必要とする問題に課題が見られたため、各教科において、教科横断的で社会課題をテーマとして探究的な学びの機会を充実させる中で、文章や資料、データ等からの要約したり、物事を批判的に思考したりする学習活動を取り入れ、読解力を向上させていく。また、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をどの学年も90%以上を維持する。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をどの学年も90%以上を目標とする。来年度は、授業において、さいたま市の「学びのポイント『じ・し・ゃ・ク』」を意識した学習活動をさらに取り入れていくとともに、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」を59%から70%に向上できるよう、学校で学んだことを家庭学習にもつなげる手立てを講じていく。

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	当該学年で習得すべき漢字を読み書きできる。 R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」においてポイントを向上させる。	⇒	漢字テストを定期的に行い、数学の授業はじめの計算プリントや朝数学を実施し、基礎・基本の定着を図る。個別最適な学びを意識し、誰一人取り残すことなく全員の成長を目指すため、指導方法として、一部教科でTTや少人数指導を取り入れる。スタディサプリの活用を5教科で進めていく。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査において、自校結果より国語・数学の「思考・判断・表現」においてポイントを向上させる。	⇒	各教科において教科横断的な社会課題をテーマとして探究的な学びの機会を充実させる。1時間の授業の中で生徒の自己決定の場面や知識をアウトプットする機会をできる限り設定する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒	課題解決のテーマや解決する方法・手段を自己決定させる機会を充実させる。常に生徒主体の視点で学びの姿を明確化するさいたま市の「学びのポイント『じ・し・ゃ・ク』」を意識した学習活動を行う。

⑤ 目標・策の達成状況

		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「知識・技能」では、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果と比較して＋2pt、±0ptであった。今後も漢字テストを定期的に行い、数学の授業はじめの計算プリントや朝数学を実施し、基礎・基本の定着を図るとともに、スタディサプリやミライシードを継続して活用していく。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「思考・判断・表現」では、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果と比較して＋1t、±0ptであった。各教科において教科横断的で社会課題をテーマとして探究的な学びの機会や生徒の自己決定の場面や知識を互いにアウトプットし合う機会の充実を図ったことで、少しずつであるあるが、数値が向上し、成果として出た。	B
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、R5年度全国学力・学習状況調査では肯定的な回答の割合は80%（3年のみ）であったが、R5年度さいたま市学習状況調査では全校で87%、3年のみで91%でった。全校での90%の目標達成には至らなかったが、1年を通して数値が向上しているので、生徒主体の視点で学びの姿を明確化するさいたま市の「学びのポイント『じ・し・ゃ・ク』」を意識した学習活動を継続して行っていく。	A

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（概ね達成） C 6割未満（あと一歩）

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の全国と自校の差と比較すると、国語－1pt、数学－5ptであった。国語では、情報の扱い方に関する事項の正答率が大きく伸びてきたが、文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題に課題があった。数学では、R4で自校の課題であった「データの活用」領域はポイントが大きく伸びたが、「自然数」「累積度数」といった用語理解に課題が見られた。
思考・判断・表現	英語では、要点や概要を捉える問題については、概ね正答しているが、自分の考えなどについてまとまりある文章を書くことに課題がある。数学では、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題の正答率は全国と大きな差はないが、無解答率が高いことから、個だけでなく、協働的に根拠をもって証明していく活動を重視して取り組ませる。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は80%で目標値に達しなかった。より一層、生徒主体の視点で学びの姿を明確化するよう授業改善に努める。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。

中1	R4年度さいたま市学習状況調査より「知識・技能」において、国語＋3pt、数学＋1pt、理科＋2ptで、「思考・判断・表現」においては、理科が＋2ptであった。国語の「話すこと・聞くこと」、数学の「関数」、理科の「粒子を柱とする領域」に関する問題は昨年度から改善が見られた。どの教科でも「知識・技能」においては、課題があり、特に国語では「読むこと」、数学では「図形」、社会では「世界の様々な地域」、理科では「生命」に関する問題にそれぞれ課題が見られた。小学校からの系統性でつながりのある内容について、既習事項を確認したり、ミライシードやスタディサプリ等を活用し、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。
中2	昨年度より「知識・技能」において、国語＋1pt、社会＋2ptで、「思考・判断・表現」においては、国語＋2pt、社会＋1pt、理科＋1ptであった。国語については多くの領域等で改善が見られた。同集団の経年比較では、「思考・判断・表現」のポイントが向上しつつあり、1年次から継続して、教科横断的な社会課題をテーマとして探究的な学びの機会を充実させてきた成果であると考える。ただし、資料からの読み取りや問題文から考えられることをまとめるといった読解力を必要とする問題に課題がある。今後は、各教科において、文章や資料、データ等からの要約したり、物事を批判的に思考したりする活動を取り入れ、読解力を向上させ、さらに思考力・判断力・表現力を高めていきたい。
中3	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」において、肯定的な回答の割合は91%、「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」において、肯定的な回答の割合は91%、「コンピュータを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめたりする学習をすることができましたか」において、肯定的な回答の割合は97%について、どれも市平均より高く、教科横断的な社会課題をテーマとして探究的な学びの機会を充実させてきた成果であると考える。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	R5全国学力・学習状況調査の国語・数学「思考・判断・表現」において課題がみられため、方策を追加し、さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校結果と比較し、国語・数学で2ptの向上を目指す。	⇒	各教科において教科横断的で社会課題をテーマとして探究的な学びの機会とともに協働的に学ぶ機会も充実させる。授業の中で生徒の自己決定の場面や知識を互いにアウトプットし合う機会をできる限り設定する。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし